

## 臨時教育委員会 会議録

平成18年度塩尻市教育委員会臨時会が、平成18年12月7日、午前8時、塩尻総合文化センターに招集された。

### 会 議 日 程

#### 1 開 会

#### 2 議 事

議事第1号 檜川地区小学校統合の校名について

#### 3 その他

#### 4 閉 会

#### ○ 出席委員

委員長	百 瀬 哲 夫	委員長職務代理者	丸 山 典 子
委員	岡 本 た ま	委員	村 田 茂 之
教育長	藤 村 徹		

#### ○ 説明のため出席した者

こども教育部次長 丸 山 保 教育企画担当課長 小 島 賢 司

#### 1 開 会

##### 百瀬委員長

それでは、今日は臨時教育委員会ということで、早朝からご苦労さまでございます。ただいまから臨時教育委員会を開きたいと思います。よろしくお願いいたします。

##### 藤村教育長

おはようございます。早朝から、また、たびたびの招集で申し訳ありません。緊急の課題ということで、今日はこの一件の課題について方向性を定めていただくということでお集まりいただきました。よろしくお願いいたします。

#### 2 議 事

##### ○議事第一号 檜川地区統合小学校の校名について

##### 百瀬委員長

それでは、さっそく議事に入ります。議事第一号、檜川地区統合小学校の校名についてを議題とします。事務局から説明をお願いします。

##### 小島担当課長

(資料に基づき説明)

- ・ 経過については、主なものを記載した。
- ・ 校名については、先の定例会の条例改正案のなかで、木曾檜川小学校として

ご決定いただいている。

- ・ この間、地区内から学校名を変える必要がないとの意見が、メールで4件あり、理事者等が地区内の会議に出席した際も有識者から同様の声が寄せられている。
- ・ 市議会9月定例会に向けた話しの中でも議会側に反発があることを報告した。
- ・ 校名は、円滑な学校運営が保たれるよう、地区内の意志決定の手続きを踏んできた。
- ・ しかし、そのような意見があるため、再度地区内の意見を集約したので報告し、教育委員会の最終的な方向付けをお願いしたい。
- ・ 経過は、校名を検討するために必要なものを掲げた。
- ・ 開校実行委員会の校名選考は、3回にわたり意見が集約された。1回目は、校名の募集で130件が寄せられた。その後、PTAの会員投票によって10件に絞り、これを一世帯一票の投票にかけて決定している。
- ・ 一世帯一票の投票には、地区内80%の世帯が参加し、木曾檜川小学校が集約され、要望書が提出され市長名で審議会諮問し答申を得ている。
- ・ 校名に反対する声は、その後いただいている。
- ・ 開校準備委員会、保護者協議の前後に地域審議会長、区長、地元市議との話し合いをしている。この中では、檜川小学校でよいとする意見があるが、開校準備委員会との協議をすべきとのまとめであった。
- ・ 開校準備委員会、保護者協議は、懇談会として開催したが、意見は記載のとおりで、市議会の同意を得るよう対応されたいとの内容であった。
- ・ 懇談会の結果は、地域審議会関係者に報告し、すでに決定済みであることが確認された。
- ・ これらの状況から、校名は木曾檜川小学校を動かしがたいと考える。
- ・ 反対意見はあるが、その量は把握できず8割が参加した投票に重きを置かざるを得ない。
- ・ 手続き的な指摘の中で、現在の校名を認めていなかった点については、実行委員会の考え方として、子ども達の交流が円滑にいくための2校閉校方式が前提であり、当然に校名は変わり地区としても一体になるとのことであり、この考え方は、否定できないと思う。
- ・ 今定例会直近の段階で議会内の反対が多い状況を踏まえ、当初から提案はしていないが、追加提案する方向が付いている。
- ・ 13日に常任委員会があり、ここで協議し14日に議員全員協議会をお願いし、委員会同様に説明し、18日最終日の追加提案を描いている。
- ・ 課題として、合併したのになぜ木曾だとする意見、地区内に反対の意見がある、校名変更は無駄な経費などがあるが、感情的な意見で根拠が弱いこと、否決による地元混乱も予想されるため、早期に決定するようがんばりたい。
- ・ 校名は、すでに認めていただいているが、再度方向付けをお願いする。

## 百瀬委員長

ありがとうございました。経過について説明していただきましたが、質疑等ございましたらお願いいたします。

## 村田委員

質問ですが、意見の集約プロセス、3段階で行われた時期はいつごろですか。

## 小島担当課長

はじめの130種の公募は、本年の4月1日から募集を開始し14日まで、PTA投票は5月30日から6月6日、世帯一票の投票は6月15日から23日の3回となっている。さきほどの約8割は83.2%で、木曾檜川小学校は38.6%、そのほか檜の実小学校、塩尻檜川、塩尻南、檜川清流小学校がある。

## 村田委員

合意形成のプロセスは、さかのぼってみれば粛々と進められています。しかし、合意形成の中では聞いている、聞いていないという話が必ず出てきますので、その時のアナウンスの仕方が適切だったかどうか。どこまで周知できていたかはどうですか。

## 小島担当課長

校名の募集の前段で、学校の統合は地元の実行委員会などの組織をおいて進めますよ、と文書で広報が配布され、この実行委員会の記録は学校に置きいつでも公開していますとしています。

小さな地区ですので人間関係は微妙ですから、実行委員会としてはPRしながら進めますので、逆に意見が出しにくいこともあったのかなと思います。現に審議会会長、元村長さんですが、最初の募集段階で檜川がはずされたことに、そういうことはおかしいんじゃないか、と文書をもって実行委員会に提出されたりしております。ただ、2回にわたってご意見を聞く中では、若者がばんばんやっているけど勢いが余ってるとの見方もされています。しかし、区長さん達がそれを超えて教育委員会に校名の取り下げを依頼したり、区長会でもう一回意見集約する取り組みまでのお考えはないということです。そうなりますと私共は手続きにそって進めるしかない状況です。

## 百瀬委員長

私からいいですか。この校名の変更について、実行委員会にそれをゆだねたところはどこですか。審議会ですか。

## 小島担当課長

実行委員会におじゃまして、どのような取り組みをするかということで、お互いに初めてのことから話しをしてきました。その中で、私共は最終的には審議会が決定しますと申し上げていますが、審議会の存在自体が地区内ではそれは何ですかくらいでした。校名は、教育委員会で決めていただければとの声もありましたので、ここで諮って決めていただければなら変える必要はないと思います。と言いましたらそれは困るというのが地域の意見でした。地域として新しい校名を定めたい、

新しい学校で子ども達を育てたいという考え方でした。最終的に地域審議会を通ることはそれでよいとのことでした。

**百瀬委員長**

いずれにしても地域審議会に校名を諮問をしたわけですね。

**藤村教育長**

そういうことです。

**小島担当課長**

手続き的には、市長が諮問しています。

**丸山次長**

アンケート集約の結果をもって木曾檜川小学校で決めていただきたいと、要望書が実行委員会からあがってきたので、それを受けて諮問したものです。

**百瀬委員長**

実行委員会から要望書があったわけですね。

**藤村教育長**

市長と教育委員会に要望書がありました。実行委員会では決定したと。ぜひこれでお願ひしたいと要望書が上がってきました。

**百瀬委員長**

地域審議会とは関係なくこちらへ来たわけですね。

**丸山次長**

それで、地域審議会へ諮問しました。

**小島担当課長**

地域審議会の性格が地域の意見を集約する事にもありますけれど、基本的には合併した後に行政サービスが著しく偏らないように、地区内の意見を尊重してくれという機関なんですね。ですから、組織的に意見を集約する点が機能していないことがあります。また、檜川の区長さんは、役場の連絡的な部分だけに携わってきたことも、そうした機能が活かせない原因でもあると思います。地区の意志決定へのかわりを受け止めていないということです。

私共が地域審議会に校名の決定をお願いしていればとも思いますが、実際に動いてくれるのは実行委員会の皆さんですから、最終的なご理解を地域審議会ですればと進めたものです。

**百瀬委員長**

その辺の所を市議会から指摘されたときに、きちんと理解していただけるように説明ができればと思います。

**小島担当課長**

地域審議会への諮問の際は、私共も同席していますが本当に一言もなかったです。審議会長としては、協議して答申しますとまとめましたが、その後も協議はなかったと聞いています。その場で即決していただいた経過ですから、その場で違う意見があれば私共も説明するなど、あとの対応も変わってきたと思います。

**百瀬委員長**

他にありましたらお願いいたします。

**村田委員**

その辺のプロセスをきちんとしながら、押していくしかないような段階ですよ。課長がさっきおっしゃったですけど、贄川、檜川をはずすことは両校閉校の基本コンセプトなんですね。

**小島担当課長**

そうです。

**村田委員**

それを変えたらだめですよ。何か新しい学校を創るときは、そういうふうなことを考えながら進めてきたと押し切らなければだめですね。

**百瀬委員長**

両校閉校方式は、合併協議会で了承されている事ですから。

**藤村教育長**

そうです。

**丸山次長**

話しをしていくと前の村政だとか、教育委員会だとか我々の立ち入れない話しのぶつかり合いになってしまいます。しかし私共は、経過にある事を根拠にやってきたわけです。もし教育委員会で決めるなら檜川小学校だと言った時、そりゃ困ると実行委員会が真剣になってきたようなこともあります。

また、贄川と奈良井、平沢の対立もすごいと思います。最初のPTAでも檜川小のPTAが贄川に非常に気を遣うスタンスをとっていました。そこからムキになって現在の校名を使わないことも出てきたと思います。

**村田委員**

それは逆に贄川地区の子どもを受け入れる、檜川小の間口の広い捉え方ですよ。

**丸山次長**

重い考え方だと思っています。

**小島担当課長**

思いやり深く一緒に始めようよ、ということを鮮明に考えているということだと思います。

**丸山次長**

地域審議会の中には、若者が集約したことへとやかく言うことはどうか、との考え方もあります。

**丸山代理**

地区開校準備委員会のメンバーは、贄川、檜川小学校から同じくらい出ていますか。

**丸山次長**

そうですね。

### 丸山代理

檜川小の方には、そういう思いやりがあるので、それに傾いた結果を出してくると思います。一方で保護者からの檜川小学校でよいとのメールが懇談会前にあったんですね。

### 小島担当課長

3通ございまして、懇談会の後にもう1通ありました。

### 藤村教育長

どうも同じ人のようですね。3通の内の一の考え方だと思えます。

### 百瀬委員長

みんな贅川地区の人ですか。

### 藤村教育長

今のお話しの通りですが、区長さんは実行委員会の方へ両方の校名を使わないことにこだわる必要がないと再三申し入れたらしいです。田中前村長さんは、穏やかな文書で切々と訴えたが受け入れられなかった経過もあり、さんざ言ったがやむを得ないんじゃないか、実行委員会と話しをしてみてもそれにこだわるのなら区長さん方も仕方ないとのことでした。

### 丸山代理

気になっていたのは、地域の人たちの意見の総意として木曾檜川小学校だと思っていましたが、中にはそうじゃない方がいると聞いたことです。決定権は市議会ですが、地域の人々の思いが伝わらない決定をするのは、やっぱりおかしいと思います。

地域の中がまとまっていなければいけないと思いましたが、懇談会で第二の決定がされたということですね。

### 藤村教育長

そうですね。

### 丸山代理

そうすれば、市議会の反対も根拠が無いように思います。校舎も檜川小を使いますから、目に見える形で結果として出たものを優先したと、後々説明できる根拠があった方がいいと思います。アンケートをとる時に今の校名を入れないことも説明が付くと思います。

### 村田委員

集約プロセスとして適正であろうと思います。ただ、投票したからいいだけではなく、木曾檜川の示すところが必要だと思います。木曾はブランドであり認知度が高いと思います。塩尻の中でも木曾のイメージが入ることは、プラスになると思いますし、合併の趣旨に添うものだと思います。木曾は活用すべきだと思います。

現状でどう発信するかという話で、10年後、20年、30年後にはどの名前がふさわしいか、経過や決めた人よりも学校や子ども達、地域のために将来から考えるとわかる気がします。その視点は大事だと思います。将来もいい学校であり続けるためにやるということですね。

ただ、なぜ木曾かには、説明できなければいけないと思います。

#### **小島担当課長**

木曾が付くことは、実行委員会が説明していますが、地理的に木曾であること、木曾街道の宿場であり、木曾漆器の知名度などからも木曾の一員であることは間違いない。そういった文化歴史からと木曾漆器のブランドからとされています。

#### **村田委員**

名前の持つ意味は重要で別の観点の配慮が必要だと思います。塩尻志学館高校も塩尻高校のままだったら総合学科制にしてもあれほど発展しなかったと思います。新しいものをプラスしていく想いが校名につながり、評価していく人にも受け入れられたと思います。

#### **百瀬委員長**

審議会の答申には、なぜ木曾檜川にしたか、そういう意味は書いてありますか。

#### **小島担当課長**

ないです。

#### **百瀬委員長**

本当はそういうものがあれば良かったですね。

#### **小島担当課長**

実行委員会の要望書にはあります。

#### **藤村教育長**

要望書の添付書類に理由が記されています。

#### **百瀬委員長**

全協の方には資料が出ていますか。

#### **藤村教育長**

話しをしています。

#### **丸山次長**

こういう答申をいただきましたという報告だけです。

#### **百瀬委員長**

岡本委員さんのご意見はいかがですか。

#### **岡本委員**

私は、二つの学校を閉じて新しい学校を創ることが大前提にありますので、どちらかの名前を使うということは考え方としてはありますが、子ども達やPTAにすれば校舎も一緒、名前も同じでは、贄川小学校はつぶれて統合されたということになってしまうと思います。なので、子ども達やPTAの気持ちを尊重するのであれば、校名は新しいものがよいと思いました。

桔梗小学校という新しい学校に子ども達は通うことになったんですが、なぜ桔梗小学校かは分かりませんし、知りたいとも思いませんでした。学校名はそういうもので、周りの人たちが受け入れていけば名前は自然とその地域に浸透していくと思います。木曾檜川小学校も木曾はブランドの一つなので、木曾に未練があるとかで

はなくて、木曾谷のひとつも塩尻市になったと受け止めるべきだと思います。市の観光にとっても、すごく大きな拡がりをもってきます。

ただ、木曾檜川小学校は、校名としてはちょっと長いですが、この前もおっしゃったように塩尻西部中学校も正式名称ではない西部中と呼ばれていますので、木曾檜川小学校ときちんと書いても通称としては檜川小学校になり、贄川小学校の子ども達にも受け入れられると思います。

木曾檜川小学校で市議会の理解が得られるように説得していく形で進んでいけばと思います。

#### **丸山代理**

塩尻高校が塩尻志学館高校になった話がありましたが、今子ども達は志学館高校と言っています。そういう点から、使っている人間が好きな名前を使うでしょうから、檜川小学校か木曾小学校になるか分かりませんが、気に入った名称を使うことで愛着もわくだろうと思います。

あともうひとつ気になりますのは、新聞の記事の中で校舎看板などの付け替えに費用がかかるとありますが、こういう事で、これだからいけないという意見はとも軽々なものだと思います。相手の方々に大変失礼な事ではないでしょうか。

#### **丸山次長**

名前が変わらなくても、新しい看板は付け替えなければいけないと思います。

#### **藤村教育長**

議員の立場は、檜川地区だけではなく全市民を対象に考えています。檜川地区への何十億の投資が頭の中にあり、どうしてもこういう事が出ると思います。心情は分かりますが、別問題で考えるべきだと思います。

#### **百瀬委員長**

今までの委員さん方のご意見では、前回の定例会で我々が決めた木曾檜川小学校でよかろうと、こんな線だと思います。

私が気になるのが市議会の対応ですが、18日最終日に提案してたとえば否決されることになった場合に、臨時議会をお願いするようなことも考えられますがどうなりますか。

#### **小島担当課長**

理事者の考え方によると思います。18日に市長が追加提案して、否決されれば一般的には同じ名前で提案できないので、またお集まりいただいて教育委員会の考え方をまとめなければいけないと思います。

#### **百瀬委員長**

逆に可決されればいいわけですが、現在の見通しはどうですか。

#### **藤村教育長**

それについては、今日決定していただければ追加提案をします。追加提案をするからには、可決していただける方向で一直線にいかなければいけないと思います。可決の可能性をみて提案しますので、今もご理解いただけるよう理事者あげて対応

しています。校名をどうするかとの原点に立ち戻ったときには、保護者や関係者が子どものためにこれでいいと決定したことを私たちは受け止めていますので、ぜひご理解していただくよう働きかけたいと思います。

#### **百瀬委員長**

昨日の議員の質問には、3月議会でも良いとするニュアンスがありましたが、最終日に急きょ提案する点はどうですか。

#### **藤村教育長**

それも含めて対応したいと思います。延ばすべきはなしでもないし、3月まで延ばすことでいろいろなことも生じる場合がありますから、今回の追加提案で成立を図っていきたいと思います。

#### **百瀬委員長**

これまでは、事務局から今定例会では難しそうだから、と聞いていますので3月でもよいとされていると受けていました。

#### **藤村教育長**

全協ですとか9月定例会では、かなり厳しい反対の空気があると受け止めていました。こちらでも説明したりすることを重ねるなかで、ことらの対応を尊重することになれば、理解していただけたらと思います。費用などの問題はどうしても出ますし、そういうことにこだわる人からの理解は難しいと思いますが、正論でいけばとういふうに見通しています。

#### **丸山次長**

先ほどの説明にもありましたが、13日の委員会協議会、14日の全協でどこまで議員に理解していただけるかということになります。この中で不利だとすれば提案しないこともあります。

#### **村田委員**

議会の反対はありますが、なぜこの名前かをきちんと説明する必要があります。今までこうやってきたから問題ないだろうという説明では、ストーリーとしての正当性を増すためだけではだめで、こういう形にしたいというコンセプトが大事だと思います。そうすれば反対も緩和されるのではないかと思います。

#### **百瀬委員長**

それでは、まとめたいと思います。檜川地区統合小学校の校名については、前回10月の定例教育委員会の決定のとおり、木曾檜川小学校で再確認をしたということによろしゅうございますか。

#### **委 長**

異議なし。

#### **百瀬委員長**

はい、ありがとうございました。

## 6 閉 会

百瀬委員長

それでは、臨時教育委員会を以上で終わりにしたいと思います。どうもご苦勞様  
ございました。

- 午前9時05分に閉会する。

平成19年1月25日

署 名

委 員 長

---

同職務代理者

---

委 員

---

委 員

---

教 育 長

---

記 録 職 員 教育総務課  
教育企画担当課長

---